

直腸低位前方切除＋人工肛門造設術を受けられる患者様へ

・入院期間は変更になることがあります

経過日時	入院日 (/)	手術当日 (/)手術前 (/)手術後		手術翌日 (/)	術後2～3日目 (/)	術後4～12日目 (/)	術後13～17日目 (/)	術後18～20日目頃 (/)	
目標	・心身ともに安定した状態で手術にのぞめる		・疼痛がコントロールされる ・出血を起こさない		・疼痛がコントロールされ歩行ができる ・飲水開始ができる	・排ガスがある	・排便コントロールができ、食事が摂取できる	・排便コントロールができ、食事が摂取できる ・ストーマ管理の注意点が理解できる	・退院後の生活での注意点が理解できる
検査	採血 歯科受診		手術室入室予定時間 (:)		体温、脈拍、血圧を定期的に測定します	採血 レントゲン	採血 レントゲン	採血 レントゲン	
治療	<下剤> 15時から下剤を内服します 病状によっては内服しない場合があります <抗生剤内服> □8:45手術の場合、夕と眠前に内服します □9時以降の手術の場合、眠前と翌朝6時に内服します		   □8時45分からの手術です 点滴せずに手術室へ行きます □9時以降の手術です 10時過ぎから点滴をします		点滴を続けます 酸素吸入を行います	酸素吸入を終了します		食事摂取ができていれば点滴の針を抜きます	退院 病理検査の結果が出れば医師よりご説明いたします。病理結果が退院時点で出ていないときは、外来でご説明させていただきます場合があります 
説明・観察	看護師が、これまでにかかった病気、飲んでいる薬などについて伺います。 現在内服中のお薬は、お薬の説明書と共に忘れずにご持参ください。手術に備え、和式の寝巻き1枚、腹帯1～2枚、バスタオル1枚、オムツをご用意ください。 氏名確認のためのリストバンドをつけていただきます 人工肛門専門の看護師がストーマ造設部位のマーキングを行います。売店でストーマケアセットのご購入をお願いします。看護師が手術までの流れについて説明をします		主治医より(/)()時頃に手術の説明があります。ご家族の方と一緒に聞いていただき手術説明書・同意書をお渡しします。必要事項記入の上看護師にお渡しください □(/)麻酔科医による診察があります		時計、指輪、眼鏡、コンタクトレンズは予め、はずしておいてください。義歯は必ず必要はありませんが、看護師までお知らせください ウィッグ(かつら)を装着している場合は、事前に看護師に申し出てください 手術当日の朝の内服薬については入院後に説明します	入院中のご家族の面会は禁止となっております、手術当日も同様です。手術後は主治医から手術の経過についての電話連絡があります	人工肛門(ストーマ)の装具の張り替えを行います。看護師または、人工肛門専門の看護師が行います 術後合併症予防のため手術翌日から歩きましょう 入院中に装具販売店の方から、退院後のストーマ装具購入方法についての説明があります	看護師とともに目標を立て、便を捨てる、人工肛門の装具を交換するというケアの練習を行います(ストーマパンフレット参照) 術後合併症予防のため手術翌日から歩きましょう 入院中に装具販売店の方から、退院後のストーマ装具購入方法についての説明があります	退院後の生活の注意点について看護師がパンフレットを用いて説明をします ストーマケア外来の説明も退院までに行います。また退院までに、ストーマの抜糸も行います
処置	へその掃除を行います				術後48時間は血糖測定を1日3回行います				
入浴					タオルで体を拭きます 			ドレーンが抜けたらシャワー浴ができます 	
活動	制限ありません 		歩いて手術室に行きます 病院で準備したハイソックスを着用して行きます		手術後はベッド上安静となります。寝返りはうってもかまいません 			制限ありません 	
食事	朝・昼は低残渣食です 昼食以降は何も食べることができません		手術当日の食事は禁止です 水分は麻酔科医の指示のもと()時まで()ml飲むことができます 		絶飲食となります			医師の診察後、許可があれば飲水ができるようになります 医師の許可後食事が開始となります 食事摂取状況に合わせて普通食まで形態がアップします	